

## 経営のヒント66 手に届く贅沢

### 手に届く贅沢」ビジネスが繁盛

## 年収 300 万円時代の贅沢とは

日本でも所得階層が生まれてきた。「年収 300 万円の時代」や「希望格差の時代」などと言われはじめ、自分のやりたいことをやることの方が、出世や昇給よりも大切だと考える若者も増えてきた。それに伴って、「手に届く贅沢」を提供するビジネスが増加してきているように見える。

そう考えながら周囲を見回すと、現代の日本で手に届く贅沢はスターバックスコーヒーだけではないことが分かる。例えばコンビニでは普通のデザートと並んで、有名シェフらと共同企画した「贅沢デザート」がよく売れている。デパートの地下で高級な洋菓子が売れているのも同じ現象だ。今日頑張った自分へのご褒美で、好きなケーキを一個だけ買って帰る。これが現代のちょっとした贅沢なのである。

TSUTAYA や GEO といったレンタル店が繁盛しているのも、手に届く贅沢の一つと言えるかもしれない。映画館やコンサートに行く回数は減ったけれど、300 円でハリウッド映画の DVD を借りてきて自宅で見ると。このようなライフスタイルは、これまでもあったことのように見えるかもしれないが、今後、「年収 300 万円」の時代の本格到来にあたっては、より時代を象徴する生活シーンとなっていくように思えて仕方がない。

### 今日」のご褒美

300 円というのは、手に届く贅沢としてはちょうどよい金額だ。これから「価格 300 円のちょっと贅沢ビジネス」を考案することは、起業家にとってよい目のつけどころではないだろうか。時代が「300 円の贅沢の時代」に突入すれば、色々な新しいビジネスが今よりも流行しそうだ。ちょっと想像してみよう。

例えば立ち飲み屋。ただの立ち飲みではなく、ワンショットだけ、「久保田」の大吟醸をくいと飲んで家に帰る。ないしはヴィンテージのハウスワインを一杯だけ楽しんで 300 円支払って立ち去る。そのように「今日一日頑張った自分への贅沢」の立ち飲み屋はこれからもっと増えるかもしれない。

あるいはショッピングセンターの片隅に置かれたマッサージチェアなどはどうだろうか。300 円コインを入れてコリをほぐしてから家路につくのだ。実際、米国では大きなショッピングセンターに行くと、新型のマッサージチェアが置いてあり、米国人がドル紙幣を投入しながら、のんびり気持ちよさそうにマッサージを楽しんでいる。自宅にマッサージチェアは置くことはできないけれど、疲れた自分に今日はちょっと贅沢を許してやる。そんなライフスタイルも本格的に登場するかもしれない。

さきほど挙げたように DVD レンタルが今よりも流行するならば、ビデオ・オン・デマンドも同様に「疲れた自分への贅沢」として使われるようになるかもしれない。ただ、年収 300 万円層をターゲットにするなら、課金形態は 1 回 300 円がよいだろう。月額 2000 円のような月会費制は新しいユーザー層にはあまり向かない。あくまで時代は「今日の自分へのちょっとしたご褒美、ちょっと贅沢」なのである。

### 経営のヒント

**頑張った自分自身へのちょっと手に届く贅沢」**

**現代の競争社会では、ストレス解消の為の新しいビジネスチャンスのヒントがある。**

**キーワードは「ちょっと贅沢」・「今日のご褒美」**

**ポップを付けて、うまアピール出来れば、ヒット間違いなしだよ。**